

授業改善のための支援のアイデア

1 授業全体における工夫

キーワード

配慮を要する生徒には「ないと困る」支援 どの生徒にも「あると便利な」支援

ポイント 1 授業の構成における工夫

(1) 教科書、ノート等の準備をするタイミングの明示。 〔例〕 ア 「☆」などの合図を決め、合図により机上を片づける。(必要ない聴覚情報を減らす支援) イ 授業の終わりに、次の授業の準備をさせてから終了する。(段取りの苦手さへの支援)
(2) 導入 〔例〕 ア 前時の内容を「〇×クイズ」、「フラッシュカード」等で復習。(記憶する力への支援) イ 最初に活動の流れや到達目標等を板書。授業の流れを一定。(集中の難しさへの支援)
(3) 展開 〔例〕 ア 授業の流れのユニット化(生徒の集中持続時間に配慮) イ 選択の幅(補充学習、発展学習)の準備。 ウ ノートに書かせる前に「着目させて→見させて→読ませて→書かせる」の流れで視覚・聴覚で内容を確認。(選択的注意や情報の把握の難しさに配慮) エ 動きを取り入れる(ノートをとらせる、空書き、アンダーラインを引かせる等)。(注意の持続の難しさ等への支援) オ 授業の間に一分間整理整頓タイム等の動ける時間を設定。事前に明示。(注意の持続の難しさへの支援)
(4) 発問/評価 〔例〕 ア 答えを“予測”させる(間違ふことへの抵抗感を減らす支援) イ 〇の種類分け。(間違っているいても賞賛できる工夫) ウ 机間指導による個別支援をしながら対角線上にいる生徒を指名、発問。
(5) まとめ 〔例〕 ア 板書のポイントやまとめを音読。(視覚的手がかりと聴覚的な手がかりによる確認)

ポイント 2 指示・説明・発問の工夫

(1) 簡潔化 〔例〕 ア ナンバリング(着目点の明示、注意集中の難しさへの支援)等 イ 一文一動詞(動作)、一文一義。(聴覚的な短期記憶の弱さへの支援)等
(2) 具体化・明確化 〔例〕 ア 抽象語を減らし具体的な言葉を使う(指示、説明の明確化、状況認知の弱さ等への支援) イ 視覚的イメージを促す表現を使う(語彙の少なさ、形式的操作の苦手さ等への支援) ウ 語調を変化させる(ポイントの前には間をおく、要点は繰り返す等選択的注意の難しさ等への支援) エ 否定的でなく肯定的な表現を使う(指示の明確化、状況認知の弱さへの支援、自尊心への配慮)

ポイント 3 板書や視覚的支援の工夫

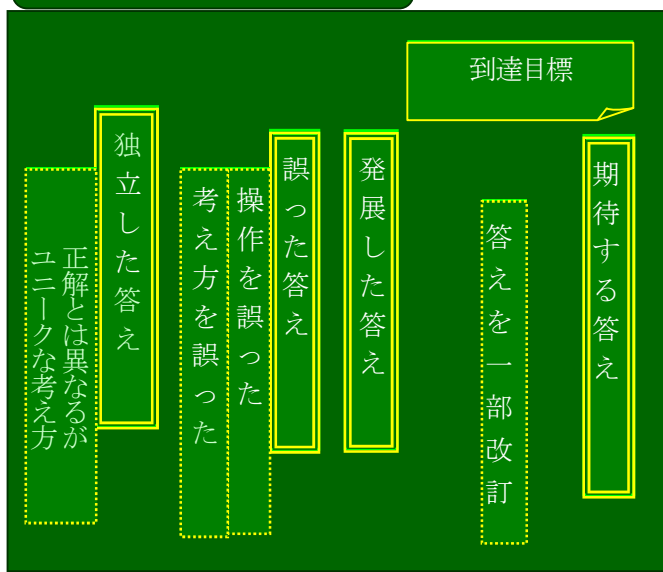
(1) わかりやすい黒板（視覚認知の難しさ、選択的集中の苦手さ等への支援）

- [例] ア 記入する内容による場所の使い分け
 イ 文字の大きさの使い分け。ポイントやキーワードは**拡大や強調**する等のわかりやすさ
 ウ **行間は広く**，罫線，**チョークの色分け**等で，ポイントにメリハリをつける等
 エ 視覚的情報(多用する指示，ポイント，矢印，枠等は**事前にイラスト化**)
 オ 書く時間の確保

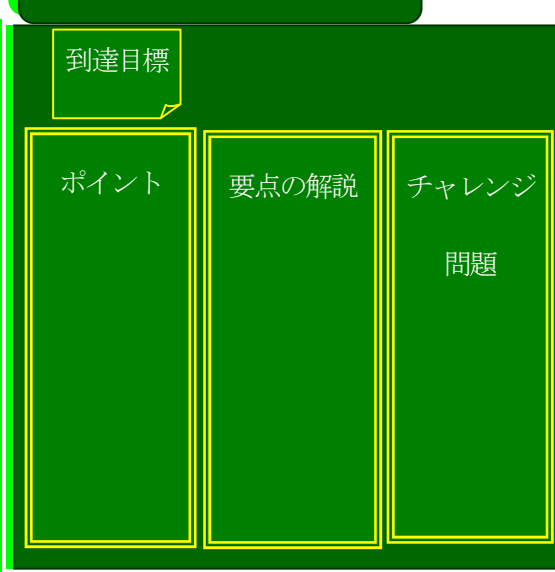
(2) 黒板の分割・構造化の例

視覚的に整理して答えを比較しやすくする。

特別支援 板書計画例 1



特別支援 板書計画例 2



ポイント 4 記憶しやすさ思い出しやすさへの支援

